

令和7年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 2	公益目的事業 11
主査名	谷口綾子 筑波大学教授	
研究テーマ	「クルマ」と「自動化するクルマ」の社会的受容に関する研究	
これまで AVs 社会的受容性を計測する手法として、AVs 車両の乗客・地域住民・来訪者・事業者等への質問紙調査による定量化を試みてきたが、回答者のバイアスや回答負担が大きく、交通参加者としての感情や意見を引き出せないなど質問紙調査の限界があること、クルマに起因する社会課題の緩和にクルマの自動化がどの程度寄与するのか不明であることから、本年度は、以下の調査研究を行う。 (1)AVs の社会的受容計測のための質問紙調査を補完する指標の検討 実証実験や本格導入を行った地域の住民・来訪者・事業者を対象として AVs の社会的受容を計測する質問紙調査を実施するとともに、当該地域の AVs 車両が収集した画像データ、加減速や操舵角、手動運転の介入記録データ等を収集・解析することで、AVs を取り巻く交通参加者の受容性を総体的に把握する手法を検討する。 (2)クルマ社会とその自動化がもたらす社会的影響を抽出し、緩和策の検討 モータリゼーションとその自動化が社会にもたらすであろう影響をいくつか抽出し、緩和策を検討する。具体的には、子供の CIM (Children’s Independent Mobility)、高齢ドライバーの補償運転、バスドライバー不足等を想定している。 研究の方法として、(1) は、AVs の実証実験/本格導入を行っている地域において、2024 年度までに開発した社会的受容計測の標準指標を用いた質問紙調査を行う。それに加えて、当該 AVs 車両が収集した各種データを AI 等を用いて分析することにより、AVs の a.アグレッシブな追い越し有無と回数、b. AVs 車両に続く交通渋滞の程度、c.周囲の交通流を AVs が阻害する場面の有無、d.歩行者の注目行動等を計測し、AVs に遭遇した交通参加者の AVs 受容度を評価することを試みる。まずはデータ入手と人の動画解析等による分析を行った上で、AI に必要な教師データの作成を行う予定である。これらより、質問紙調査データと、AVs 車両データ(画像・加減速・操舵・介入など)を組み合わせ、社会的受容を評価するシステムに向けた基礎的検討を行う。(2) は、モータリゼーションに伴う諸課題（子供の CIM (Children’s Independent Mobility)、高齢ドライバーの補償運転、バスドライバー不足等を想定)と、クルマの自動化による影響の実態についてインタビュー調査を行い、仮説を導出し、アンケート調査等で仮説検証する。具体的には、子供の CIM 低下が子供の心身や大人の送迎行動にもたらす影響、免許返納が困難な高齢ドライバーの行動実態、AVs バス実証実験の報道がバスドライバー不足に与える影響、等のトピックを扱う。		